道中だより

第　371　号

令和２年７月８日発行

・巻　　頭　　言
・第71回全日中総会報告
・地区だより・論文
・文芸・さりながら
・特別寄稿・大会案内
・地区研・事務局日誌

第71回全日本中学校長会総会

新型コロナウイルス感染症の難局を乗り越えて

北海道中学校長会　副会長　和　田　正　教

新学期が始まってすぐに新型コロナウイルス感染者の増加により，全都道府県に「緊急事態宣言」が出され，子供たちはもとより相互の感染拡大防止のため道内の公立学校は再び臨時休業となった。今までに経験したことがない臨時休業が長期におよび，生徒・保護者・教職員においても感染症対策へのストレス，感染・先行きへの不安，授業進度等の不安や悩みが尽きない状況である。そのような中にあって各中学校では，校長のリーダーシップのもと，子供たちと教職員を守るための様々な取組を適切に実行している。学校再開後も，当分の間は「密閉・密集・密接」の３つの密を意識し，感染リスクを最大限に抑えた教育活動，生徒の心のケアをしっかりと進めていかなければならない。

今年度の道中・全日中の活動においても，新型コロナウイルス感染拡大のリスク回避のため，４月28日の総会，５月の全日中総会，函館大会・全日中研和歌山大会，諸会議が中止となり，中学校長の職能向上や中学校教育の振興に関わる活動に大きな影響が出ている。特に，９月に函館市で開催予定であった道中研函館大会が中止となり，函館市中学校長会が数年前から今大会の成功に向けた諸準備，研究推進等を考えると本当に残念である。函館市中学校長会の佐竹実行委員長はじめ，実行委員の校長先生方には今までの労をねぎらうとともに，本研究大会で行われる予定であった各分科会の提言等を全道の会員に還流できるよう実行委員会，道中研修部等との協議をお願いしたい。今年度の道中活動が７月11日の理事研・専門部研から始まり，全道の校長先生方とともに「オール北海道」「チーム北海道」で道中の活動が再開できることを期待している。

今後は，学校再開後の様々な取組や対応を行わなければならない。臨時休業による授業時数の確保や評価，行事の延期による内容変更等の対応，「ＧＩＧＡスクール構想」の前倒しによるタブレット等の１人１台の年度内配備，来年度完全実施となる新学習指導要領への備え，働き方改革等についても取り組まなければならない。やるべきことは山積しているがこの難局を皆で乗り越えていければと思っている。

最後に，昨年度は道中において事務局長として仕事をさせていただいた。力不足のため御迷惑をおかけしたことも多々あったが，各地区校長会，理事の校長先生方に道中活動への御理解と御協力，御支援をいただき職責を全うできたことに感謝申し上げたい。校長として残り１年弱，微力ではあるが道中の活動充実のため全力を尽くす所存である。

第71回 全日本中学校長会総会

第71回全日本中学校長会総会は，新型コロナウイルス拡大防止のため全日中会館及び各基地局にてＷｅｂを活用し，５月21日に開催された。

会長挨拶の後，議事では下記の案件が審議，承認された。また，同日午後からは文部科学省初等中等教育局長の講演があり，その後文部科学省行政説明が行われた。

［５月21日㈭］午前

○議事

１　令和元年度会務報告

２　令和元年度決算報告

３　令和２年度役員選出（会長及び道中関係分）

会　長	東京都八王子市立第七中学校	三田村　裕
副会長	岩見沢市立北村中学校	鎌田　浩志
理　事	札幌市立中央中学校	木村　佳子
理　事	札幌市立北栄中学校	和田　正教
理　事	当麻町立当麻中学校	竹森　茂雄

４　令和２年度活動方針

５　令和２年度予算

６　令和３年度第72回全日中研究協議会開催地

開催地　静岡県浜松市

開催日　令和３年10月21日㈭，22日㈮

７　令和３年度第72回全日中研究協議会主題・分科会研究題

・研究協議会主題

「新たな時代を切り拓き，よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

・分科会研究題（担当地区）

⑴　「カリキュラム・マネジメント」の推進（北海道）

⑵　「主体的・対話的で深い学び」の実現（近畿）

⑶　よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実（九州）

⑷　健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実（四国）

⑸　社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実（東海北陸）

⑹　自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実（東北）

⑺　多様化した学校教育課題に対応できる教員の養成（関東甲信越）

⑻　地域との連携・協働による「チーム学校」の創生（中国）

８　宣言・決議

○講演　「当面する初等中等教育上の諸課題」

講師　文部科学省初等中等教育局教育課程課長　滝波　泰　氏

○文部科学省行政説明

説明　教育課程課・財務課・児童生徒課・スポーツ庁政策課学校体育室

宣　言

今日，我が国の教育は人格の完成を目指し，伝統と文化を尊重するとともに，豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは，新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ，新しい時代の中学校教育の課題に対応し，教育基本法をはじめとする関係法規，学習指導要領の趣旨を踏まえ，自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し，教育の真価を示さなければならない。

全日本中学校長会は，教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め，新たな中学校教育の創造を目指し，国民の負託に応えることを宣言する。

決　議

第71回総会に当たり，以下の事項を決議し，その実現を期する。

一，人間尊重の精神に徹し，「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育に努める。

一，全日中新教育ビジョンを踏まえ，学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し，確かな学力の定着，豊かな心と健やかな身体の育成に努める。

一，現在の学校教育課題に即した研修を充実し，教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。

一，創意ある教育活動を展開し，家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため，人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。

一，「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し，教育水準の維持向上を期する。

一，学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ，学校の組織運営体制の見直し，教職員の意識改革等により働き方改革を推進し，新しい時代に求められる学校づくりに向けリーダーシップを発揮する。

一，東日本大震災をはじめ災害等により被災した地域の復興を期し，教育活動の充実に向けた支援と全国各地区・各学校における防災教育の充実に努める。

令和２年５月21日
第71回　全日本中学校長会総会

第71回
全日本中学
校長会総会

令和２年５月21日

会　長　就　任　挨　拶

全日本中学校長会　会長　三田村　　裕　氏

ただいま，全日本中学校長会第44代会長として御承認いただきました，東京都八王子市立第七中学校長三田村裕でございます。新役員を代表いたしまして，一言御挨拶申し上げます。

本日ここに，皆様の御承認をいただき大役を仰せつかりましたことは，身に余る光栄でございます。微力ではございますが，全国の公立中学校長によって構成される本会の目的を達成するため，全力で責務を果たしてまいる所存でおります。どうぞよろしくお願いいたします。

この1年間，全日本中学校長会のために御尽力いただきました川越豊彦会長をはじめ，副会長，理事，そして幹事の皆様，お疲れ様でございました。本当に有り難うございました。

全日本中学校長会の目的は，「中学校教育の振興を図り，国家社会の発展に寄与すること」にあります。その至高な目的を達成するために「全国各都道府県中学校長会相互が緊密な協調を保つこと」が重要です。会則第2条に明記されたこのことの実現に向け，今後，新役員一同，尽力して参ります。是非ともすべての会員の皆様のお力添えを賜りますよう，心よりお願い申し上げます。

ここで，全日本中学校長会として取り組んでまいる重点を3点述べさせていただきます。

1点目は，新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学びの保障です。

5月14日に39の県で緊急事態宣言が解除され，既にかなりの数の学校が，授業等の教育活動を再開させました。また，現在臨時休業中である学校も再開を想定した準備を進めています。これまでの2か月以上にわたる臨時休業期間，いまだかつて経験したことがない事態に対し，私たちの誰もが，中学校教育のため，具体的に言えば，一人一人の生徒のためにより良い答えを求め日々模索してきました。そんな私たちにとって，生徒が学校に戻ってくる学校再開は大きな希望と言えます。しかしそれは同時に，新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ，感染症対策を講じながら生徒の健やかな学びを保障するという新たな，そして大きな課題への模索の始まりでもあります。

生徒と教職員の健康と安全を守るためにどのような感染症対策を具体的に講じるか，生徒に学びを保障するため，限られた期間で実効をあげる効率的且つ効果的な教育課程をいかに再編成するか，人との関わりの極端な減少や生活習慣の変化等の影響により，心身の状態に変化の生じた生徒をいかに把握し支援していくかなど，迅速に取り組まねばならない課題は多々あります。しかし，生徒一人一人の顔を思い浮かべたとき，それらの課題への取組は私たち校長の意欲へと変わります。

全国の公立中学校が，感染症対策を講じながら生徒の健やかな学びを保障する場であること。これは全日本中学校長会の当面の最重要課題です。この認識の下，全国9千人以上の校長の叡智を結集すること，そして難局を乗り越えるために行政とも緊密に連携していくことに全力で取り組んでまいります。

2点目は，「全日中新教育ビジョン」の推進です。

来年度は新学習指導要領が全面実施となる年度です。

情報化やグローバル化といった社会変化が急速に進む予測困難な時代にあっても，変化に対し主体的に向き合って関わり合い，自らの可能性を発揮して未来社会を創り出す人間であってほしい。新学習指導要領に託されたこの願いは，社会の願いでもあり，こうした人間を育成することが私たちの目標であることに疑いを挟む余地はありません。この願いに応え私たちの目標を実現するため，教科横断的な視点に立ち社会に開かれた教育課程を編成し，カリキュラム・マネジメントにより学びの質の向上を図ること，全ての学習の基盤となる言語能力や情報活用能力や現代的な諸課題に対する対応力を育成することに私たちは全力で取り組んでいきます。しかし，創意工夫をもって取り組むためには，その担い手である教員に十分な時間的且つ精神的なゆとりが不可欠です。勤務時間管理の徹底，学校が担う業務の明確化・適正化，学校の組織運営体制の在り方等の働き方改革を，教員の意識改革とともに確実に推進していかなければなりません。

後に提案いたしますが，平成21年に提示・公表し，その後2度の改訂を行った「全日中教育ビジョン」を継承しつつ，新時代に対応しうるよう新たな「全日中新教育ビジョン」を策定いたしました。ここには，校長が，自らの言葉で自身のビジョンを学校内外に伝える際に一つの指針となるよう，取組の方向と10の提言を示しております。新学習指導要領の実施や学校における働き方改革を含め，生徒に未来を作る力を身に付けさせるために知・徳・体をバランスよく育むことを意図して策定された「全日中新教育ビジョン」が，全国の中学校に普及・浸透することが，我が国の中学校教育の振興を図り，ひいては国家社会の発展に寄与するとの思いで，その推進に努めてまいります。

3点目は，全国各都道府県中学校長会相互の緊密な協調のより一層の推進です。

これまで述べてきた2点の取組を確実に行うためには，全国の中学校長同士，或いは各中学校長会と全日中との緊密な連携と協調が不可欠です。

特に新型コロナウイルス感染症に関連する諸課題については，或いは今のこの事態をきっかけに最近にわかに議論されるようになった9月入学については，行政機関等から全日中に意見を求められることがあるでしょう。また，全日中から行政機関等に学校現場の状況を伝えたり働き掛けを行ったりする必要も今後生じてくるでしょう。こうしたときに全日中が適切に対応するためには，9千を超える全国の中学校の現状を的確に把握していなければなりません。と同時に，全日中の取組が，全国の校長先生お一人お一人に確実に届けられる必要があります。これを実現するためには，市区町村校長会と都道府県校長会との，また，都道府県校長会と全日本中学校長会との協調が不可欠です。そしてこの双方向性のある協調こそが，先ほど申し上げた「全国9千人以上の校長の叡智を結集すること，そして難局を乗り越えるために行政とも緊密に連携していくこと」の具体的な姿です。

市区町村等の単位の校長会においては事細かに共有されている一校一校の現状や課題，或いは対応策などについての具体的な話が，そのまま各都道府県の校長会に伝わり，更に全日本中学校長会にもたらされるよう，また，全日中の取組が迅速に全国の各中学校に伝わるよう，そしてそのことで各地域や各校の課題を全日中として解決できるよう，各都道府県の理事の皆様のお力を借りながら，双方向性のある情報や意思の伝達・共有の実現に全力で取り組んでまいります。

結びになりますが，本会の充実に向け，これまでの歴代会長はじめ諸先輩方が築かれ継承されてこられましたことを受け継ぎ，「実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団」としての役割を果たすため，皆様とともに歩んでいくことをお誓い申し上げ，新役員代表としての会長の挨拶といたします。

第71回
全日本中学校長会総会

講　演

当面する初等中等教育上の諸課題（要旨）

文部科学省初等中等教育局教育課程課長　滝　波　　泰　氏

１　新型コロナウイルス感染症について

有効性が確認されたワクチン薬がない状況においては，手洗い，咳エチケット，換気といった基本的な感染症対策に加え，新しい生活様式に学校を含めた社会全体が移行していく必要がある。また，地域の感染状況により学校教育のあり方を適切に判断し，可能な限り教育活動を実施していただきたい。各学校においては校長を中心に保健主事，養護教諭，各学級担任らと学校医，学校薬剤師等の専門家が連携し学校における保健管理体制を築くとともに，家庭との連携も密に行うことで感染対策を進めていただきたい。

２　新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応及び学びの保障について

(1) 臨時休業に伴い学校に登校できない児童生徒の学習保障について

学校は指導計画を踏まえながら，プリント，テレビ放送，ICTを活用し適切な家庭学習を課し，教師の学習指導や状況把握と組み合わせて可能な限り学習を支援していただきたい。

(2) 児童生徒が登校できるようになった後の学習指導

最終学年を優先した休業中の登校日設定，間隔を空けた座席配置，40人学級を2つのグループに分けた授業の実施，密集する形態の学習活動は避ける，夏休みの短縮，土曜授業の実施，カリキュラムの順序の変更を検討していただきたい。こういった工夫により本年度の指導内容については可能な限り年度内で終えられるようにしていただきたい。そのためには「子供の学び応援サイト」の充実や補正予算にてGIGAスクール構想の加速，人的な支援を行っていく。

３　「新しい時代の初等中等教育の在り方」（平成31年4月27日諮問）の現在の審議状況について

令和元年12月の中央教育審議会初等中等教育分科会においては，新しい時代を見据えた学校教育の姿として，「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない，個別最適化された学びが実現」されること，「全国津々浦々の学校において質の高い教育活動を実施可能とする環境が整備」されることを示した。その実現のためには「ICTや先端技術の効果的な活用」を進め，「義務教育９年間を見通した教科担任制の在り方」について教員定数確保等の視点から検討を進めていく。

４　教育の情報化の推進について

昨年の12月に発表されたOECDによるPISAの調査結果からは，日本は授業におけるICTの活用が低いという状況であることが明らかになった。また，読解力の国債順位が大きく下がった原因として，コンピュータ画面上の長文を読み取る力やマウスを正確に操作して表を完成させるといったICTを活用する能力が低いことが考えられるところである。ICT環境整備のための予算は従前から講じられてきたが，学習者用端末は「5.4人／1台」という水準にとどまっており，加えて自治体間の差が大きいという危機的状況である。そのため，令和元年に2,300億円，令和2年には2,200億円の補正予算を組み，GIGAスクール構想の実現を急いでいるところである。

５　学校における働き方改革の取組状況について

公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン（平成31年1月25日文部科学省策定）は，改正給特法第7条を踏まえ，「指針」に格上げ（令和2年1月17日文部科学省告示）し，在校等時間の縮減の実効性を強化することとした。「勤務時間」とは「超勤４項目」以外の自主的・自発的な勤務も含め，外形的に把握することができる在校時間を対象とすることを基本とし，その上限は1か月45時間，1年間360時間以内を目安とした。この実現に向けて，休日の「まとめ取り」導入のための1年単位の変形労働時間制の適用を可能にした。また，今年度の予算において，学校における働き方改革や複雑化・困難化する教育課題へ対応するための教職員定数を3,726人改善したところである。

６　いじめ・不登校支援・児童虐待対応について

(1) いじめ対策について

各学校で定めている学校いじめ防止基本方針に沿った取組ができているかどうか，学校いじめ対策組織を活用した組織的な対応がなされているかどうか，その定期的な点検が必要である。

また，今回の新型コロナウイルス感染症に関しては，海外から帰国した児童生徒等，外国人児童生徒等，感染者，濃厚接触者とその家族，新型コロナウイルス感染症の対策や治療にあたる医療従事者や社会機能の維持にあたる方とその家族等に対する偏見や差別につながるような行為は，断じて許されるものではないため，以下の対応をすること。①新型コロナウイルス感染症に関する適切な知識を基に発達段階に応じた指導を行う，②相談窓口を適宜活用すること，③（咳をしている人等）特定の対象を嫌悪の対象としてしまうことで，差別や偏見が起こることなどを指導すること，④マスクを入手できない児童生徒等がいじめ等を受けることのないよう，生徒指導上の配慮等を十分に行うこと。

(2) 不登校支援について

不登校児童生徒数は6年連続で増加しており，喫緊の課題である。今後の重点施策として，①児童生徒が安心して教育を受けられる魅力ある学校づくり，②「児童生徒理解・支援シート」を活用した組織的・計画的な支援，③不登校児童生徒に対する多様で適切な教育機会の確保，④教育相談体制の充実，に努めていただきたい。

(3) 児童虐待対応について

平成30年度における児童相談所の児童虐待相談対応件数（速報値）は，159,850件であり，平成11年度に比べて約13.7倍に増加している。学校は相談経路の7％を占めることから今後も児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し，児童虐待の早期発見に努めていただきたい。

７　特別支援教育の現状と課題について

近年，子供の数が少なくなっていく中で，特別支援学校あるいは特別支援学級に在籍する児童生徒が増加していることから，全ての学校，学級において教育的支援を必要とする子供たちが在籍する可能性があるということを踏まえ，全ての教師に特別支援教育に関する一定の知識・技能が求められている。具体的には，通常学級の教員の専門性の向上策として，教員養成課程における「特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解」を必修とした。高等学校入学試験においては，障がいのある生徒に対する必要な配慮が行われることによって不利益を受けないといった旨を生徒，保護者へ周知するとともに高校とも連携を図っていただきたい。

８　高校生等への修学支援について

高校の授業料支援に充てるための高等学校等就学支援金，及び，授業料以外の教育費支援として高校生等奨学給付金があり，生徒，保護者がこういった進学先で受けられる支援について中学校段階で知っていることが進路選択の重要な情報となる。各学校においては積極的に周知に努めていただきたい。

後志教育の一層の充実・発展のために
～一人一人の校長の力を結集して～

後志・喜茂別中　**五十嵐　邦　春**

後志小中学校長会は,齊藤信之会長のもと,小学校39人,中学校24人, 計63人の会員でスタートした。
今年度は,これまでの管内における組織強化と学校改善の成果を継承し,道小・中学校長会や後志教育局,町村教育委員会協議会との連携を強めながら,「一人一人の校長の力を結集する」を基本に後志教育の推進と充実のために取組を進めていく。

【運営方針】

1　愛情と信頼に基づく,活力ある学校経営
2　「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善
3　児童生徒理解を深め,時代の変化に即した生徒指導や個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進
4　会員の共同研究を推進し,研究成果の交流を図るとともに校長自らの研さん
5　教職員の一層の資質・能力の総合的な向上
6　教育諸条件を把握し,その改善と整備・充実
7　教職員の処遇の改善

以上,７項目を運営方針とし,鋭意努めていく。

テーマは「先見性・自立」

小樽市・向陽中　**村　上　俊　一**

小樽市中学校校長会は, 小樽市が目指す教育の基本理念『主体的に学び　小樽の未来を創る　心豊かな人づくり』に基づき, 研さんを積み重ね, 着実に成果をあげてきている。世界が混乱する今だからこそ, 校長には先見性とフットワークの軽さが必須である。そしてとどまることなく, 小樽の教育は次なるステージに進む必要がある。そのためには, 予測困難な未来に向けて, テーマ「先見性・自立」を定め, 展開していく。

【重点目標】

① 学校運営の強化
② 小中一貫教育の前進
③ 業務改善の推進

【活動の具体】

① 危機管理の要, 人材育成のＯＪＴ
　組織力強化, 人材育成を目指す「校務規定」の検証。
② ９年間の学力保障, 登校支援
　小中９年間の教育課程に向けて
③ 子供たちのための働き方改革の視点
　改善プランの策定と実行, 検証

地区だより

宗谷の風土に根ざした
一層質の高い教育の実現を

宗谷・豊富中　**畠　山　博　次**

宗谷校長会は10人の新会員を迎え, 53人の会員により本年度の活動を開始した。

本会は, 結成以来「宗谷の風土に根ざした豊かな自然に育む子ども」というテーマを掲げ, 社会の変化に伴う学校教育の諸課題を正面から受け止め, 会員相互が研さんに励み, 自らの職能向上と学校運営の課題解明を図ってきた。本年度も教育関係機関・団体と連携しながら, 宗谷の教育の更なる充実・発展に努めていきたい。

【運営方針】

1 保護者・地域の願いに応える学校経営の充実
2　校長会活動の活性化による宗谷の教育の充実・発展
3　教育関係機関・団体との連携による教育諸課題の解決

【活動の重点】

1 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努め, 愛情と信頼に基づく活力ある学校経営の推進に努める。
2 研究・研修活動を充実し, 校長の職能向上と教職員の資質・能力の向上に努める。
3 教育関係機関・団体と連携し, 教育条件の整備と教育諸課題の解決に努める。
4 校長会の組織を強化し, 活動の活性化を図る。

和心一統の精神を受け継ぎ,
留萌教育の充実と発展を

留萌・増毛中　**藤　田　智　哉**

留萌管内小中学校長会は, 今年度４人（新採用３人）の新会員を加え, ８市町村の会員27人（小16人, 中10人, 小中併置１人）で組織されている。４月の総会研修会で前田　雄会長（留萌・留萌小）を選出し, 以下の方針等を確認し, 本年度の各業務を推進している。

【運営の方針】

1 校長の使命と責任を自覚し, 自らの識見を高める研修の充実と情報の共有を図る。
2 会員相互の連携を密にして信頼関係を深め, 組織の強化と活動の充実を図る。
3 物事や事象の変化に対し, 柔軟に対応できる組織を確立し, そのときのベストを目指す。
4 教育関係機関・団体及び地域社会との連携を強化し, 諸問題の解決を図る。

私たち校長会は,「留萌教育のめざす姿」の実現のため,“和心一統（一人一人が存在感をもって, 個性を存分に発揮し, 和をもって真実に迫る）”の精神を受け継ぎ, 新たな取組にチャレンジし, 校長会の活性化と職能向上を図り, 留萌教育の充実と発展に寄与していきたい。

檜山の教育　充実・発展のため
～たくましい児童生徒の育成～

檜山・今金中　**酒　井　豊　志**

檜山校長会は，小学校20人，中学校10人合計30人で組織されている。「ふるさと檜山に誇りをもち，自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒の育成」に向け，学校経営の在り方を究明し，保護者や地域住民の負託と信頼に応えるため，校長は職責の自覚と創意ある展望のもとリーダーシップを発揮し，教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化を目指している。

【活動の重点】

1 組織マネジメントを活かした活力ある学校経営の推進
2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成・実施・評価・改善
3 時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的推進
4 教職員の資質・能力の総合的な向上
5 服務規律の厳正な保持
6 組織活動の活性化と充実
7 ミドルリーダー並びに管理職候補者の育成（重点）
8 防災教育と健康安全教育の充実
9 学校における「働き方改革」の推進（重点）

未来切り拓き　豊かな社会を創り出す
日本人を育てる渡島小中学校教育

渡島・大沼岳陽　**楢　山　　聡**

渡島小中学校長会は，海野厚二会長（北斗市立上磯中学校）の下，10人の採用校長と２人の転入校長，合計12人の新会員を迎え60人でスタートを切りました（小40，小中併置１，義務教育学校１，中18）。

【運営方針】

1 創意と秩序のある渡島小中学校教育の充実と発展に努める。
2 教育の動向を踏まえ，教育関係機関・団体との連携を強化し諸課題の解決に努める。
3 新しい次代を担う学校経営の充実に努める。
4 未来を切り拓き，豊かな社会を創り出す子どもたちを育成する教育課程を編成し，カリキュラム・マネジメントを確立する。
5 子どもの自己実現を目指す開発的・予防的な生徒指導に努める。
6 会員個人や共同の研修を通し，校長としての識見や指導力の向上に努める。
7 教職員の意識改革と資質・能力の向上を図るとともに，後継者の育成に努める。
8 教育条件整備と福利厚生施策の充実に努める。
9 渡島小中学校長会の組織の強化と活動の充実に努める。

地区だより

生徒の将来の幸せを準備する
学校経営の推進

函館市・五稜郭中　**木　村　雅　彦**

函館市中学校長会は，８人の新会員を迎え，会員数21人で今年度をスタートさせた。生徒数減少による学校再編が進む中，佐竹　聡会長の強いリーダーシップのもと，組織を挙げて「学校力の向上」，「信頼される学校の構築」などに取り組んでいる。生徒の将来の幸せを準備する学校経営をめざし，会員の英知を結集し，函館の教育の充実に努める。

【基本方針】（要約）

・校長会の組織を機能させ，教育課題を解決
・「信頼される学校づくり」の創造
・関係機関との連携，教育条件の整備充実

【活動の重点】（要約）

・ＣＳを生かした学校の在り方に関する研修
・ネットワークによる教育課題，経営課題の解決
・学校力の向上を図る各評価の充実と活用
・実践交流に基づくリスクマネジメントの研修
・市教委，幼小中高との一層の連携
・校長職能向上と後継者育成に資する研修
・函館市教育振興基本計画と自校の経営の融合

オール空知で進める教育

空知・沼田中　**米　倉　卓　司**

空知校長会は，太田智子会長をはじめ24市町の小・中学校長100人で組織されている。明確な学校経営ビジョンに基づくリーダーシップの発揮により，信頼に応える地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進している。「新たな時代を豊かに生き，よりよい社会を作り出していく日本人を育てる学校教育」を研究の基本主題とし，日々の学校経営の改善に努めている。空知を心のより処として「世界を見つめ社会の形成に向けて挑戦する子ども」の育成を目指し，教職員の資質能力や意欲を高め，地域・関係団体等との協働のもと，学校経営の充実・発展に努める。

【活動方針】

1　校長としての使命を自覚し常に研さんに励み，学校の自主性・自立性を発揮して学校経営の充実・発展に努める。
2　会員相互の協力や信頼関係を一層深め，組織を充実・強化し，組織運営効率化及び諸問題の解決に努める。
3　教育関係機関・団体と密接に連携し，教育課題の解決と，地域・保護者から信頼される学校づくりに努める。

〈論　文〉

危機的状況にある状況だからこそ，敢えて組織改革に挑む

札幌市立宮の丘中学校　**長　内　康　志**

１　はじめに

今回の新型コロナウイルスの感染防止対応に関わり，教育現場には大きな混乱がもたらされた。当然のことながら，我々が経験したことのない事案であり，対応の内容についても自校の生徒に関することに限らず，保護者や地域社会との関係性をいかに構築するかなど，先の見えない中で，手探りの学校運営が続いている。刻々と変化する状況に対し，それに応じた的確な対応が求められるため，学校組織にはより有機的な運営が求められる。経験したことがない状況であるがゆえに，ある面ではトップダウンの指示系統が要求される。

だが，この指示系統には限界があるとともに集団の育成という視点においては，マイナス面もある。それは，指示待ちによる集団意識の低下と組織として変化できる機会の喪失である。今回の一連の動きから，社会には急激な変化への対応が求められたが，敢えてこの状況を利用して，意識改革及び，組織改革を進めることにした。

２　課題として存在していたもの

本校は昭和57年に開校し，今年で38年目を迎え，生徒数503人（令和２年５月現在）で，本市においては中規模校である。教職員の年代別構成は，20代が約29%，30代が約18%，40代が約10%，50代が約43%であり，両極が多く中間層が薄い状況にある。

最近の傾向として同様の状況にある学校も多いと考えるが，加えて本校では大学卒業してすぐに勤務する教諭や期限付き採用の若年層が多いといった特徴が存在する。そのため，バイタリティは存在するのだが，「指示待ちの傾向」「自分の意見を控える」「他に頼りすぎ」という傾向にあった。また，超過勤務縮減の取組についても，自らの時間や仕事を犠牲にしてまで，学校全体に関わる業務が優先されているなどの課題が存在した。

赴任２年目を迎える今年度は，これらの改善に着手するべく，教頭と意見を交わしながら，校内組織やＰＴＡの運営など，様々な改善に向けて取り組む準備を進めていたところであった。その矢先，今回の対応事案が発生した。

３　逆境をどう生かすか

改善計画は頓挫するのでは…と，案じられた。そんな中で頭をよぎったのは，松下幸之助氏の「とにかく，考えてみることである。工夫してみることである。そして，やってみることである。失敗すればやり直せばいい」という言葉であった。考えてみると，本校教職員が今回の現状をしっかり把握し，その対応策等を自ら考えて実践するかどうか，それぞれの成長に大きく関わってくるものである。その点を考えの中心に据え，「今だからこそできること」を柱に，改革設計図の練り直しを図った。

４　見えてきたもの

今回の臨時休業の長期化に伴ってクローズアップされたものの一つに，情報の伝達や生徒の学習支援等に関わってのＩＣＴ機器の活用があった。これらの活用に関しては，若年層教職員の方が圧倒的に実践に長けており，知識が豊富で柔軟な発想で多くの工夫を生み出すことができる。今回，Ｚｏｏｍを用いた健康観察や学習支援については，本校最年少の教諭が中心となって準備を進めていた。

また，学校年間計画やＰＴＡの年間活動計画，学校諸費等の詳細の決裁前に休業が余儀なくされたこともあり，今まで以上に真剣に議論できる環境が生じ，学年会や各部会に時間をかけることができたこと，ベテラン層と若年層との距離感が狭まり，コミュニケーションが活発になったのが見て取れるようになった。

５　更なる高みを目指し

今回の対応では「特別委員会＋α」での構成になることが多く，分掌の枠を超えることを意識して実施した。普段，我々の組織においては垣根を超えることを敬遠し，その結果情報が停滞して「チーム一体としての動き」が取れず，経験者主導の運営になってしまうことが多かった。そのため，彼らの長である教頭に責任が重くのしかかってくる図式が成り立っていた。今回の様な案件の対応においては，教頭が動きやすい状況を構築しておくことが欠かせない。そのため，対応を急がなければならない状況にはあるものの，できるだけボトムアップによる組織の活性化を狙った。

６　結果として

今回の対応には，経験の長短ではなく，様々な知恵や工夫が求められるものが多かった。その結果，全体で議論し行動場面が多くなり，個々に自信が生まれ各集団も活性化し，提案内容も高度になってきている。今後の本校組織の更なる充実を願っている。

文　芸

これで終わりじゃない

白老町立白翔中学校　**穴　田　博　樹**

例年，１月に受検を控えた３年生と面談を行っているが，その中で，中学校生活で一番の思い出は何かを聞くと，修学旅行，学校祭，部活動の３つのうちのどれかが返ってくる。

私の中学校時代をふり返っても，一番の思い出に残っているのは所属した陸上競技部のことである。

小学生のとき，グラウンドで汗を流す中学生の様子を見物に行くことがあった。躍動している中学生の姿は眩しかった。とりわけ陸上競技部員が，足底に釘をはやしたようなスパイクシューズで，サクサクと音を立てながら走る姿はとても格好よく思えた。

中学校に入学し，陸上競技部に入部した。練習は想像以上にきつかったが，１年生春から２年生の秋まで順調に自分の記録が伸びていくのがうれしかった。ひと冬越して３年生になった春は，グラウンドでスパイクシューズを履いて練習し，大会がくることを心待ちにしていた。きっと，努力すれば，それが良い結果となって表れることに，中学生ながら手応えを感じていたのだと思う。

いまの中学３年生も，一人一人が夢や希望をもち，これまでの練習や試合での経験を経て培ってきた体力や技術がどれだけ伸びたかを楽しみにし，それを確認する場である大会やコンクールを目標にしながら学校生活を送ってきただろう。

しかしながら，５月の段階で，新型コロナウイルスの影響により夏季の中体連に関わる大会や吹奏楽コンクールの中止が決定し，３年間の部活動の集大成として大きな思い出になるはずだった大会がなくなってしまった。

生徒たちはどのような気持ちでいるのか。このような状況（現在は臨休中）だからやむを得ないとあきらめの気持ちもあると思うが，心のどこかに割り切れなさがあり，そしてぽっかりと心に隙間ができているのではなかろうか。その心中を察したときに心が痛む。

私から部の顧問の先生方には，その隙間を埋めるだけでなく，前へと歩むエネルギーになる言葉を生徒に語りかけることをお願いした。

これで終わりじゃなく，この先にある高校生活でまた新たな夢や希望に向かって進んでもらいたい。

コロナウイルス感染の第２波，第３波もあり得るという予想もあるが，一日でも早い終息を祈る。

文　芸

「Think different」に想う

陸別町立陸別中学校　**濱　田　和　光**

私が長年のＭａｃユーザーであるためか，「Think different」というフレーズを意識することがあります。意味は「発想を変える」，「ものの見方を変える」ということですが，自分ではもう少し広い意味合いを感じています。この言葉は，英文法的には正しくないそうです。それは，由来がアップル社のキャッチコピーであるためです。1997年にアップル社の創始者であるスティーブ・ジョブズ氏が倒産寸前だった会社に復帰した際に，このフレーズとともに社内の企業理念を強化することも狙ってキャンペーンに使われました。いわゆる創られた言葉なのです。ジョブス氏本人が創ったフレーズではなかったそうですが，ライバルの一つでコンピュータの発展に創始期から関わったＩＢＭ社のモットー（社是）が「Think」であったことから，それを一捻りしたものとしても捉えられていました。おそらく，ＩＢＭやWindowsとは違うという意味合いも込められていたのでしょう。どちらにしても，アップル社やＩＢＭ社ともに考えることを重視していることには変わりありません。考えることがスタートでありました。しかし，同じ「Think」でも両者から受けるイメージは異なります。考え方の違いともいえるものを感じます。この違いは大きな問題になってきます。

一般社会でも考え方の違いというのは物事が決裂するときの要因になり得ます。教育に目を向けてみると，学習指導要領でいう「見方・考え方」のように考え方は教科の特質に応じて異なります。世の中でいう考え方も英語表現を借りればThink positive（前向きに），Think safety（安全に），Think ahead（先を見越して）等様々です。当然，人によって考え方の癖のようなものもあります。ですから，いろいろな考え方を尊重しつつも，適宜判断しながら多様な見方をすることが必要です。

今後も，古くから行われている「考える」ことは物事の基底となるはずです。人がどのように考えたかを聴き取りながら，自分の考えも成長させ伝えていくこと，実現に向かって進むことがより重要になっていくはずです。そんなことを「Think different」から想起するのです。意味や背景を想像することで前向きな方向性を与える言葉は大変魅力的です。

余談ですが，今年度の学校実践目標を「Think考える」としました。考えることや考えさせることが多い令和２年度です。

校長の交流人事に思う

釧路市立鳥取西中学校　**小　玉　　功**

釧路で校長に採用され，２年が過ぎようとしていたある日のことでした。突然，次の赴任先が帯広と知らされ目が点に…。そこから２年が経ち，この春，再び釧路に舞い戻ってきました。異動を告げられたあの日から，今日に至るまでの自分の心の在りようが，自分ごとですが恥ずかしく，おもしろくて仕方ありません。

帯広への異動が決まったとき，正直に言うととてもネガティブな感情をもちました。「何で自分が」「採用じゃないのに」「だれが，何のために」そんな心の在りようで帯広の生活を迎えようとしていました。

帯広で迎えた４月１日，職員会議での様々なセレモニーを終えて，やれやれと校長室の椅子に腰掛けたときのことです。次々と私に電話が入ってきました。相手は，帯広の中学校校長会の先生たちからでした。「ようこそ帯広へ」「○○校長から聞いていた。何でも相談してくれ」「力になるから心配いらないぞ」そうした内容の電話ばかりでした。職員会議のセレモニーで，少しだけダメージを増していた私の心に，それはとても温かく響きました。そして，ねじ曲がりかけていた私の心をまっすぐと，前に向かせてくれる大きなエネルギーになりました。

それから２年，帯広で様々な経験をさせていただきました。いつの間にか，帯広の校長先生たちと一緒に働くことが，自分の学校の先生たちと一緒に働くことが，楽しくて仕方なくなりました。そしてふと気がつくと，ずっと帯広にいてもいいかもしれないと思い始めている自分がいました。

この４月，たくさんお世話になった帯広の皆さんに別れを告げ，再び釧路に戻ってきました。戻ってみると，２年前には見えなかった新たな景色が見え始めています。今は，釧路と帯広を現場感覚でつなぎながら，道東をもっとよりよくしていきたい，そんな思いをもっている。２年前の私にはまったく想像もできなかったことです。

管内の生徒，家庭，地域，そして教職員の状況を十分理解した上で，校長として自分の思い描く理想の学校の創造に全力を傾けたいとお考えの校長先生がたくさんいらっしゃるかと思います。さりながら，と今，言いたくなっている自分の心の在りようをおかしく思いながら，帯広での出会いと毎日に心から感謝しています。

何も持っていないけど

別海町立別海中央中学校　**相　澤　　要**

平成28年，私は知床半島に位置する羅臼町の中学校に勤務していた。９月に行われた修学旅行の引率中に地元で土砂崩れが発生し，海岸沿いに１本しかない道が途絶えた。旅行を終えても帰宅できない生徒が10人ほどいた。学校は１週間近く休校した。

２年後，現任校で修学旅行を引率した。３日目の午前３時すぎ，緊急地震速報のサイレン音が携帯電話から鳴り響くと同時に，激しい揺れに襲われた。ここは札幌で，修学旅行中である。頭の中の回路がつながった瞬間，がく然とした。幸い生徒は無事だったが，余震の心配があり，停電も続いたため，終日ホテルで過ごした。翌日，学校で保護者や教職員に拍手で迎えられたときに，引率者一同の肩の荷が下りた。

それ以来，「校長先生は何か持っていますね」と言われるようになった。そんなことはないと思うが，最悪の事態を想定することの難しさを実感したのは確かである。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大。これも年が明けた時点では全く予想していなかった。感染を防ぐ方法はもとより，卒業式の変更や分散登校への対応など，初めて出会う問題ばかりだった。数か月先のことも考えなければならないので時間の感覚が混濁し，「まだ４月なんだ」と何度思ったことか。学校だけでは判断できない事案も多く，教育委員会との連携や校長同士のつながりが，これほど求められたことはなかったかもしれない。

長い臨時休校は，今までの教育とこれからの教育について思いを巡らす機会にもなった。休み中の生徒の様子を聞いて，学校は主体的に学ぶ力をどれだけ付けてきたのか，受験という枠を取り除いたときに生徒はどのように学びに向かうのか。感染者や医療従事者への差別や偏見のニュースに接し，これからの道徳教育はどうあるべきか，など。こんなときだからこそ，考えたことを整理し，これからの学校経営に反映していきたい。

６月１日に学校が再開した。各学校は，教育課程の正常化に向けて苦労されていることだろう。

本校も，検討しなければならない問題が山積している。秋に行う修学旅行もその一つ。私も引率する予定なのだが，今回は出発する前に難題に直面した。今のところ「やはり何か持っていますね」という人はいないが，健康と安全に配慮しながら，何とか実施してあげたいと考えている。

（特別寄稿）

ふるさと比布を思う教育環境づくり ～君の夢プロジェクト～

比布町教育委員会
教育長 北 川 範 之

まちづくりの基本は人づくりであり，教育はまちづくりそのものである。ふるさと比布が将来にわたって輝き続けるためには，地域の発展を支える人材の育成が不可欠である。

しかし，比布町には高校がなく，中学校を卒業すると町外の高校に通い，高校卒業後はほとんど町を離れる。比布町で育った子供たちには戻ってきてほしいという思いはあるが，子供たちには夢や希望に向かって挑戦し，全国あるいは世界で活躍してほしいと願う。そして，子供たちにはどこにいてもふるさと比布を思い，いつまでもふるさとを応援したいと思ってくれるような教育環境づくりに努めていかなくてはならない。

比布町は，平成23年度から「君の夢プロジェクト」推進事業に取り組んでいる。「有名選手に教わりたい」「大ホールで演奏したい」など，部活動に取り組む中学生の要望に応え，思い出づくりに一役買い，部活動の励みにしてもらおうとスタートした事業である。

それから10年，「君の夢プロジェクト」事業は，毎年創意工夫を凝らしながら，中学生をはじめとした比布町の子供たちの夢を叶えてきている。

「君の夢プロジェクト」は，主に二つの事業で成り立っている。一つは部活動支援事業で，もう一つは講演会事業である。部活動支援事業は，プロの試合や演奏会を観ること，通常では利用できない施設を利用して部活動を行うこと，一流の選手や指導者を招いて技術指導を行うことなどを実施している。また，講演会事業は，各界で活躍されている方を招いて，中学生や小学生の心に響くお話をしていただいている。

子供たちが夢や希望を膨らませ，将来の生き方や進路を選択する能力を養うことを目的とした「君の夢プロジェクト」は，子供たちにふるさと比布の誇りと愛着を確実に育てるとともに，「住んでよかった」と思えるまちづくりにもつながっている。

未来を担う無限の可能性を秘めた子供たちが，自分の可能性を発揮し，幸せな人生とよりよい社会の創り手となる力を身につけさせていくために，学校・家庭・地域・行政がそれぞれ教育の場として十分機能し，協働できる「総がかりの教育」を大切にしていきたい。

パレートの法則

上川教育研修センター
所 長 福 家 尚

パレートという経済学者が提唱した法則の一つに「仕事の成果の８割は，費やした時間全体のうちの２割の時間で生み出している」とあります。これは私たちが仕事している時間の大部分はほとんど成果を挙げていない，と受け止めることができます。

このことを授業における教員の指導に当てはめて考えることはできないでしょうか。

授業をふり返ったときに，発問はどうだったか，活動は有効であったか，教師の働き掛けに意味がなく成果を挙げていないものはなかったか，と授業の評価・改善のひとつの視点になると思います。

すると，50分の授業の中で，たった２割の10分しか子供たちにとって有益なことをしていなかった，と言うこともあるかもしれません。

それを防ぐためには，まず授業づくりの中で，発問や板書を吟味し，活動を精選することが大切です。

現職校長のときには，小学校だったので，特に音楽における歌唱指導，体育におけるスキー指導などの実技系の授業で，子供たちに活動させず指導者だけが「しゃべりまくる」この法則の状態に陥ることのないよう，先生方に声かけをしてきました。

さて，学校全体を見渡してみましょう。

授業以外でも，先生方が多くの時間を割いて一生懸命取り組んでいる仕事が，全て子供たちの豊かな成長につながっているでしょうか。

校内の諸行事・諸活動は，準備の時間・労力に比して，子供たちを健やかに育んでいるでしょうか。事務処理，提出物などにかける時間はどうでしょうか。校内の業務改善にも目を向け，切る物は切り，本当に子供たちのために成果をあげることができる営みに全力を尽くしていきたいものです。

今（４月現在），コロナウイルスの感染防止の対応のため，子供たちがほとんど学校に来ていない状況が続いています。教師も子供も大変不幸せな状況であり，心から終息することを祈るばかりです。

そして，ほんの少しの時間しか子供たちに向き合うことができない今，私たちは関わり方を見直すべきと考えます。つらく苦しい状況ですが，この時期を乗り越えることで，学校で過ごす全ての時間を，子供たちにとって素敵で価値ある時間にしていくきっかけになればと思っています。

第62回北海道中学校長会研究大会 函館大会
第71回全日本中学校長会研究大会 和歌山大会について

今年度は残念ながら表記大会がそれぞれ中止になりました。現在，両実行委員会では，研究の成果を会員の皆様に還流し，その灯を「次へ」繋いでいくために，研究の成果を冊子でお届けできるよう準備を進めていただいております。詳細につきましては，7月11日の臨時理事研修会でお伝えいたします。

第62回北海道中学校長会研究大会 函館大会（開催予定内容）

１　基本主題　『新たな時代を切り拓き，よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
～潮風に歴史浪漫が薫る函館から　逞しく未来を生きる子どもを育てる学校経営～

２　主　　催　北海道中学校長会

３　主　　管　函館市中学校長会

４　後　　援　北海道教育委員会　函館市　函館市教育委員会　函館市中学校教頭会　函館市ＰＴＡ連合会

５　期　　日　令和２年９月25日㈮，26日㈯

６　会　　場　函館市民会館　花びしホテル

７　大会概要　【第１日目】　開会式，全日中会長情勢報告，全日中提案概要説明，分科会，教育懇談会
【第２日目】　記念講演，記念講談，閉会式

８　全日中和歌山大会・提案概要説明

【第２分科会】「主体的・対話的で深い学び」の実現

提案者　札幌市立元町中学校　和　泉　明　一　校長（札幌市地区）
千歳市立北斗中学校　小　川　　満　校長（石狩地区）

９　分科会提言

分科会	研　究　主　題	提言者	研　究　の　視　点
1	「社会に開かれた教育課題」の実現	【宗谷】(浜頓別町・浜頓別中) 細　谷　隆　志　校長	創意工夫に基づく調和のとれた教育課程の編成・実施
2	新たな時代に求められる資質・能力の育成と学習評価の充実	【釧路市】(釧路市・北中) 松　岡　伸　之　校長	学力向上を目指した学校経営の推進
3	豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	【オホーツク】(置戸町・置戸中) 石　原　邦　彦　校長	よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実
4	多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成と働き方改革の推進	【後志】(余市町・東中) 本　田　明　美　校長	教職員としての使命感を高める校内研修の充実
5	家庭・地域や校種間における連携・協働の推進	【胆振】(登別市・緑陽中) 野　崎　　均　校長	地域との連携・協働の推進

10　記念講演　講　師　文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　長　田　　徹　氏

11　記念講談　講釈師　荒　到　夢　形　氏

12　情勢報告　全日本中学校長会会長　三田村　　裕　氏

令和２年度　地区別教育経営研究会計画 (6月30日現在)

道中経営部・道小経営部

地区	開催地	会場	開催日程		担当者		形態
			月日(曜)	時程	氏名	勤務校	
石狩短縮開催	北広島市	石狩教育研修センター	10月６日(火)	15:00～15:50	佐藤辰彦	北広島市・東部小	共催
札幌小誌上開催	札幌市	ホテルライフォート	10月19日(月)	14:00～16:45	出葉充	札幌市・桑園小	小独
札幌中短縮開催	札幌市	ホテルライフォート	11月18日(水)	14:30～16:30	中村邦彦	札幌市・向陵中	中独
後志開催中止	倶知安町	ホテル第一会館	~~８月５日(水)~~	~~13:00～15:45~~	~~木村明彦~~	~~喜茂別町・喜茂別小~~	~~共催~~ 法制研と併催
小樽開催中止	小樽市	ジブラルタ生命ビル	~~８月４日(火)~~	~~13:30～15:00~~	~~古田優子~~	~~小樽市・望洋台小~~	~~共催~~
上川開催中止	旭川市	上川教育研修センター	~~８月４日(火)~~	~~13:00～15:30~~	~~藤弘のぞみ~~	~~下川町・下川中~~	~~共催~~
旭川小開催中止	旭川市	神楽公民館	~~８月４日(火)~~	~~10:20～11:40~~	~~及川勝也~~	~~旭川市・青雲小~~	~~小独~~
旭川中開催中止	旭川市	神楽公民館	~~８月４日(火)~~	~~10:00～11:30~~	~~工藤亘~~	~~旭川市・明星中~~	~~中独~~
宗谷開催中止	稚内市	稚内総合文化センター	~~７月29日(水)~~	~~9:10～10:25~~	~~三野宮誠一~~	~~豊富町・豊富小~~	~~共催~~ 法制研と併催
留萌短縮開催	羽幌町	羽幌町中央公民館小ホール	９月28日(月)	10:00～12:00	堀井理	羽幌町・羽幌小	共催
檜山検討中	江差町	江差町文化会館	10月２日(金)	9:15～16:30	佐藤等	せたな町・久遠小	共催
渡島・函館開催中止	函館市	函館競輪場テレシアター	~~９月３日(木)~~	~~13:00～16:00~~	~~松浦一秀~~	~~函館市・八幡小~~	~~共催~~
空知開催中止	岩見沢市	ホテルサンプラザ	~~10月６日(火)~~	~~13:00～16:30~~	~~出口哲也~~	~~岩見沢市・岩見沢小~~	~~共催~~ 法制研と併催
胆振開催中止	登別市	登別市民会館	~~10月１日(木)~~	~~13:00～16:20~~	~~井内宏磨~~	~~厚真町・上厚真小~~	~~共催~~ 法制研と併催
日高実施	新冠町	レ・コード館	８月４日(火)	9:55～12:00	新井健一	新ひだか町・東静内小	共催 法制研と併催
十勝・帯広検討中	幕別町	百年記念ホール	10月７日(水)	12:50～16:40	玉川弘幸	鹿追町・瓜幕中	共催 法制研と併催
釧路・釧路市開催中止	釧路市	釧路教育研究センター	~~８月28日(金)~~	~~13:00～16:00~~	~~大西展史~~	~~弟子屈町・弟子屈小~~	~~共催~~
根室開催中止	中標津町	トーヨーグランドホテル	~~８月28日(金)~~	~~9:00～12:00~~	~~加藤和弘~~	~~別海町・西春別中~~	~~共催~~
オホーツク誌上開催	北見市	端野公民館	~~10月１日(木)~~	~~13:00～16:30~~	~~工藤知義~~	~~雄武町・雄武小~~	~~共催~~

道中事務局日誌

5月23日～7月7日まで

月日	曜	業務内容	時刻	場所
5. 23	土	日本教育会北海道支部令和２年度第42回総会・研修会（木村）（書面開催）		
25	月	北海道学校給食研究協議会学校部会事務局引継会（書面）（鎌田, 山田）		
6. 1	月	公益財団法人　日本教育公務員弘済会北海道支部第１回幹事会（木村）（書面開催）		
2	火	第３回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)(書面開催・Ｗｅｂ配信)		
6	土	~~臨時副会長研修会(五役, 副会長, 専任職員)~~	12:30	ライフォート札幌 中止 7/11 へ
		~~臨時専門部研修会~~	13:00	ライフォート札幌 中止 7/11 へ
		~~臨時理事研修会（五役, 副会長, 運営委員, 地区理事, 事務局員, 専任職員）~~	14:00	ライフォート札幌 中止 7/11 へ
9	火	北海道教職員互助会第１回理事会（鎌田）	13:30	損保ジャパン札幌ビル
10	水	全日中臨時副会長会（Ｗｅｂ）（鎌田）	13:00	岩見沢市
11	木	臨時五役研修会(五役, 専任職員)	13:00	ばらと北一条ビル
		第５回小中合同研修会(五役)	15:00	ライフォート札幌
		部活動関係者会議（鎌田）	10:30	道庁別館
13	土	北海道ＰＴＡ連合会会令和元年度第10回役員会, 令和２年度役員予定者会(小川, 加藤)	13:00	ポールスター札幌
18	木	北海道教育の日総会（越田）（書面会議）		
23	火	第４回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)←7／2からスライド	10:30	ばらと北一条ビル
		ＮＩＥ全国大会札幌大会実行委員会設立総会（鎌田）	14:00	北海道新聞社
29	月	北海道公立学校教職員互助会第２回理事会(三浦利)	13:30	損保ジャパン札幌ビル
7. 7	火	道教委教育長表敬訪問（鎌田, 木村）	11:00	道庁別館

北海道中学校長会
発行者　会長　鎌田　浩志　　事務局　札幌市中央区北１条西３丁目 敷島プラザビル４Ｆ
TEL011-251-1344 FAX011-251-1302
編集者　道中情報部　　http: // www.dochu-kochokai.jp

本誌の発行にあたっては，作成方法等の見直しにより経費の削減に努めています。